



R3. 2. 24

今月のキーワード パフォーマンステストの実施(1)

小学校新学習指導要領の実施に伴い、ALT と対面で会話を行うパフォーマンステストを実践されている小学校もいくつか見受けられます。今月号と来月号では、南河内中学校区小学校3校で共通に取り組んだパフォーマンステストの例を紹介しします。各学校において、実施方法や評価の在り方について共通理解を図るとともに、子どもの実態に応じて積極的に取り入れていただきたいと思います。

パフォーマンステストに向けた取組(例)



1 教師用手持ち資料より抜粋

◆評価規準 (『話すこと [やり取り]』 (5年生の例))

自分のことをより知ってもらったり、相手のことをより知ったりするために、質問したり感想を伝えたりして、互いのことを伝え合っている。

何のための活動なのか、目的を明確にする。

◆評価基準

評価		【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】 ※自己調整力も含め評価する。
3段階評価	☆の数			
A	3	ALTの聞きたい内容を理解し、不自然な間を置かずに、英語でやり取りをしている。	お互いのことをよりよく知るために、ALT の反応に応じて、自分の意思や感想を伝えたり、質問したりして継続したやり取りをしている。 <u>(3回以上のやり取りを目安とする)</u>	お互いのことをよりよく知るために、ALT の反応に応じて、自分の意思や感想を伝えたり、質問したりして継続したやり取りをしようとしている。
B	2	ALTの聞きたい内容を理解し、単語のみで答えたり、日本語が混じったりしながらも、英語でやり取りしている。	お互いのことをよりよく知るために、ALT の反応に応じて、自分の意思や感想を伝えたり、質問したりしてやり取りしている。 <u>(1~2回程度のやり取りを目安とする)</u>	お互いのことをよりよく知るために、ALT の反応に応じて、自分の意思や感想を伝えたり、質問したりして、やり取りをしようとしている。
C	1	ALTの聞きたい内容を理解しておらず、単語を使ってもやり取りしていない。	お互いことをよりよく知るために、自分のことを伝えたり、ALT の質問に対して反応を示したりするなど、やり取りしていない。	お互いことをよりよく知るために、自分のことを伝えたり、ALT の質問に対して反応を示したりするなど、やり取りしていない。

回数などは、校内で基準を話し合っている。



子どもの姿を思い描いて、具体的な言葉で基準を設定することが大切ですね。

◆留意点

・【思考・判断・表現】の評価は「目的や場面、状況等に応じて話しているか」という点が重要。リアクション等のみで評価するのではなく、**目的を達成するために、どのように工夫したか、相手の話を受けたやり取りになっているか(会話の内容面)**を評価できるようにする。

必ず3つの観点の評価しなければならないわけではありません。【知識・技能】については単元計画の中で計画的に評価をとっておくことも考えられます。

◆事前指導



- ・授業中に先生と児童または児童同士でスモールトーク(フリートーク)を継続して行い、表現に十分に慣れさせておく。
- ・相手の様子を見ながら、必要に応じて言い直したり、繰り返したりすることや、相手が言ったことに対して感想を述べたり質問したりすることが互いをより知ることであり、コミュニケーションが円滑に進むことを確認する。

(【思考・判断・表現】及び児童用ふり返り用紙「工夫して」の視点につながる)

・「自分のことを知ってもらったり、相手のことを知ったりするために、お互いのことを伝え合う」という目的を伝える。

(児童には、コミュニケーションの目的について伝え、特定の表現を使って会話をすることは伝えない。)



自分の行きたい場所について自分のことを知ってもらったり、〇〇先生のことを知ったりするために、お互いのことを伝え合ひましょう。

コミュニケーションの目的を達成するために、児童がどのように工夫しているか(質問したり、感想を伝えたりする等)を評価するため、目的を明確に伝えましょう。



「Where do you want to go?」と聞かれたら、「I want to go to ~.」と自分の行きたい場所について答えましょう。

特定の表現を使うなど、言語材料を指定することは、【知識・技能】を評価することになります。特にパフォーマンステストの直前などに、特定の表現について練習させる必要はありません。

2 児童生徒用(自己評価シート)

※自己評価の仕方についても児童と共有しておきましょう。



【知識・技能】と関連する視点

既習の表現を使って、英語でやり取りをする姿。言語材料(例:単元で学習した表現など)を使って正しく表現できたかどうか、自己評価できるよう伝えておくとよい。

【思考・判断・表現】と関連する視点

自分のことについて話したり、共感したり質問したりしながら会話を継続する姿。やり取りの回数などを設定した場合は、目安として児童と共有しておく(各学校の実態を踏まえて設定する)

パフォーマンステストに至るまでの過程で、授業中における学びを生かし、改善している部分(自己調整力)についても評価することができる。

Talking Time Name ()

めあて 自分のことを知ってもらったり、クラリス先生のことを知ったりして、もっと仲良くなるために、お互いのことを伝え合おう!!

ポイント(これができたら、★★)

英語を使って ★★

- ・今まで習った単語や、知っている表現を使って会話をしよう。(知らない単語は、日本語で伝えてもいいよ!)

工夫して ★★

- ・自分のことをよく知ってもらえるように伝えよう。(伝わっているかどうか確認したり、言い直したりする)
例) OK?
- ・クラリス先生のことをよく知るために、質問しよう。
例) How about you?
What ~ do you like?
- ・感想や自分の考えを伝えながら会話しよう。
例) Me, too.
It's good!

Level up!!

★★★
・単語だけでなく、文章で答えてみよう!
・不自然な間をあげずに会話しよう!

例) What food do you like?
★★★ Sushi.
★★★ I like sushi.

Level up!!

★★★
・自分のことをもっと知ってもらうためにより詳しく自分の考えを伝えよう。
・クラリス先生のことをもっと知るためにより多く質問してみよう。
※クラリス先生とのやり取りを3回以上続けることを目標にしよう。

ふり返り

英語で	工夫して
☆☆☆	☆☆☆

○できたこと・がんばったこと

○これからがんばりたいこと

文責：学校教育課 稲葉 亜希恵

次号へ続きます・・・